

今月のトピックス

- | 感染性胃腸炎が流行しています。
- | インフルエンザが流行期に入りました。
- | 風しんの流行が継続しています。
- | A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎が瀬谷区で警報レベルです。
- | RS ウイルス感染症が再び増加傾向です。
- | 咽頭結膜熱が例年に比べ報告数が多くなっています。
- | マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握の対象

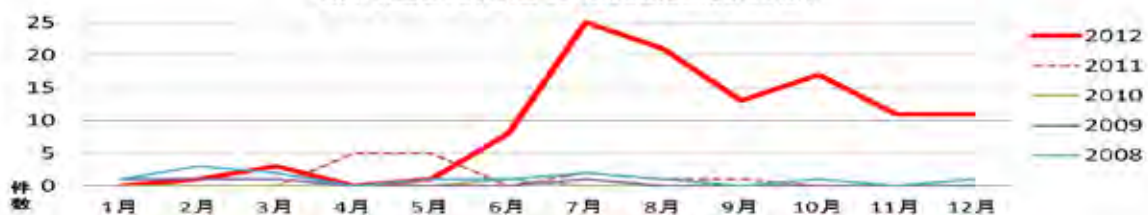
- 1 細菌性赤痢: 1 件の Shigella sonnei の報告がありました。エジプトでの経口感染が推定されています。
- 2 レジオネラ症: 2 件の肺炎型の報告がありました。どちらも感染の原因は現在調査中です。
- 3 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症 4 件の報告がありました。いずれも国内での感染が推定されており、うち 1 件は性的接触による感染、もう 1 件は経口感染が推定されています。残るもう 2 件は感染経路等不明でした。
- 4 後天性免疫不全症候群(HIV 感染症を含む): 3 件(AIDS 2 件、無症状病原体保有者 1 件)の報告がありました。AIDS のうち、1 件はニューモシスティス肺炎による発症で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。もう 1 件は HIV 脳症による発症で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。無症状病原体保有者の 1 件は国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
- 5 風しん: 11 件(男性 7 件、女性 4 件)の報告がありました。全国的な流行は第 30 週をピークに減少傾向となっていた第 44 週から下げ止まり、東京都を中心とした関東地方や、大阪府などの関西地方などでは現在も流行が継続しています。横浜市でも 12 月に入っても依然報告が続いており、引き続き注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しん HI 抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています。さらに、今回の流行の中心は、予防接種歴が無い、あるいは不明の 20~40 歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.go.jp/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

市内風しん届出数(2012.12.25現在)

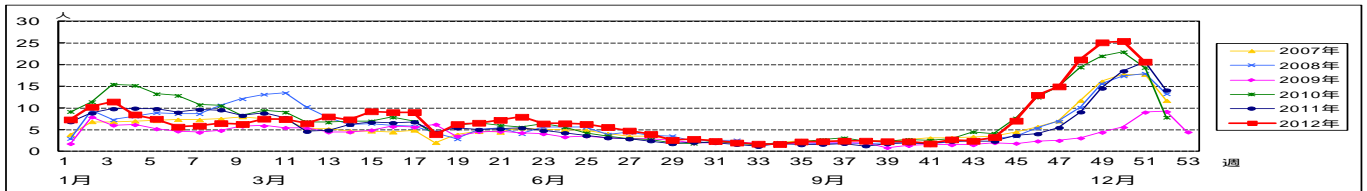


定点把握の対象

- 1 感染性胃腸炎: 第 48 週に定点あたり 21.21 となり、警報が発令された後も増え続け、第 50 週には 25.47 となりましたが、第 51 週は 20.70 とやや減少しました。しかし、依然として流行しているため引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

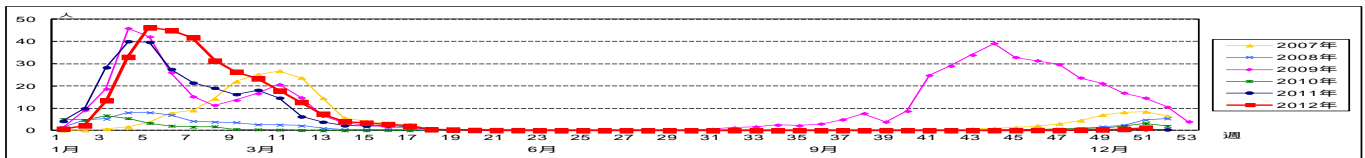
平成 24 年 週 - 月日対照表	
第 48 週	11 月 26 ~ 12 月 2 日
第 49 週	12 月 3 ~ 9 日
第 50 週	12 月 10 ~ 16 日
第 51 週	12 月 17 ~ 23 日

横浜市衛生研究所: 次亜塩素酸の詳しい使用方法 <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

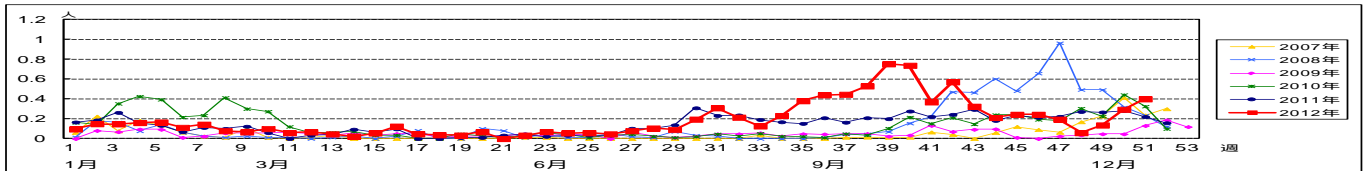


- 2 **インフルエンザ**:第51週に市全体で定点あたり1.21となり、流行開始の目安となる1.00人を超えました。全国では既に第50週に1.17となり、流行期に入っています。全国のウイルス検出状況では、AH3亜型(A香港型)が主流となっています。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

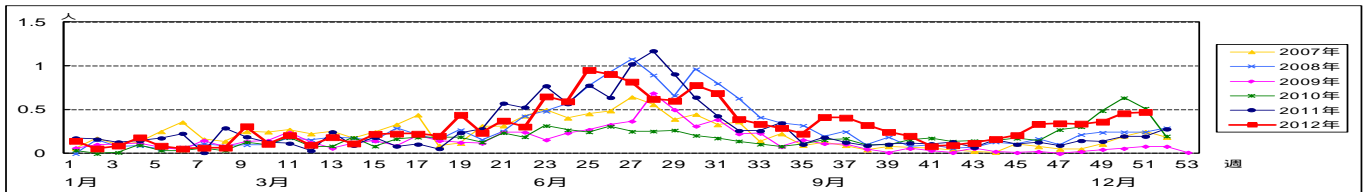
[インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)    [インフルエンザ臨時情報](#)



- 3 **RSウイルス感染症**:第48週は市全体で定点あたり0.06と減少していましたが、第51週では0.40と、上昇に転じており注意が必要です。

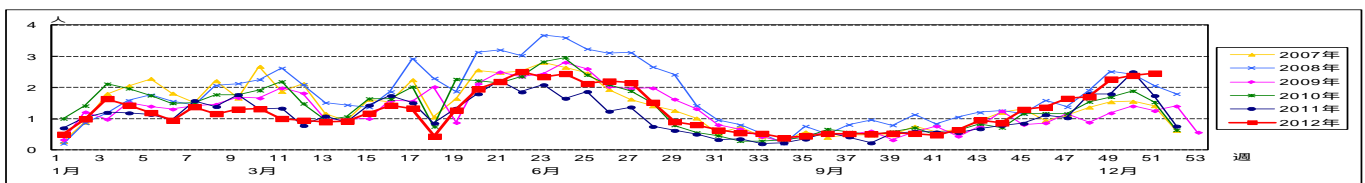


- 4 **咽頭結膜熱**:第51週0.48と例年より報告が多くなっています。区別では港北区1.86となっています。



- 5 **水痘**:第51週は市全体で定点あたり2.04と、大きな流行は見られませんが、神奈川区4.20で注意報レベル(定点あたり4.00以上)を上回っており、注意が必要です。

- 6 **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**:第51週は市全体で定点あたり2.46と警報レベル(定点あたり8.00以上)を下回っているものの、増加傾向です。瀬谷区では9.25と警報レベルとなっており、注意が必要です。



- 7 **性感染症**:11月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性2件、女性が6件でした。淋菌感染症は男性が10件、女性が1件でした。

- 8 **基幹定点週報**:全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり1.00を超える状況が続いています。横浜市でも第48週1.33、第49週2.67、第50週3.00、第51週2.50と、報告が多い状態が継続しています。細菌性髄膜炎が第50週に1件(60歳代、病原体は肺炎球菌)、無菌性髄膜炎が第50週に3件(40歳代2件、10歳代1件、いずれも病原体は検出せず)ありました。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

- 9 **基幹定点月報**:11月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症6件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

この報告とデータの詳細については、下記に掲載されていますので、ご参照ください。  
横浜市衛生研究所ホームページ URL:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/>